

(吉徳 五月人形商戦 プレスリリース)

男児の初節句 五月人形を飾って家庭内のお祭をお楽しみください
話題の「明智光秀」をモチーフとした甲冑商品も登場



令和2年登場の名将甲冑「明智光秀公」(東京・浅草橋 吉徳本店)

初節句のお祝いは家庭内のお祭としてお楽しみください

脈々と受け継がれてきた日本の年中行事「端午の節句」を彩る五月人形。それは、男児の誕生を祝い、健やかな成長と幸せを託す“お守り”です。

端午の節句の歴史は遠く奈良時代に始まり、江戸時代後期には現在の五月飾りの原型となる人形・鎧・兜が座敷飾りとなって広く普及しました。

令和時代初の端午の節句まであと1か月半。吉徳は少しでも早く社会の平穏が戻ることを祈りつつ、五月のお節句には両親の熱い思いが込められた五月人形を飾り、親族が集い、主役の男児を囲み、楽しい「家庭内のお祭」としてお祝いをしていただきたいと願っております。

それは、五月人形の意義を再認識するとともに、今の時期だからこそ、家庭内のあたたかいつながり・絆を深めるまたとない機会ではないかと考えております。

今年の商戦のトピック。「明智光秀公」甲冑登場

商戦はすでに始まっていますが、本格化するのは3月下旬から4月の上旬です。五月飾りの定番は「兜飾り」と「鎧飾り」ですが、本年も「兜飾り」中心の展開と見ています。購入者の目は、“素材、作りとも高品質で、サイズはコンパクト”に向いています。平均価格帯は「兜」が16万円前後(税抜き)、「鎧」は25万円前後(税抜き)と予測しています。時代を反映し、オンラインによる購入も増加傾向にあります。

商戦の話題としては、人気を集めている「明智光秀」をモチーフとした大河ドラマ「麒麟がくる」タイトルロゴ許諾商品「明智光秀公」の甲冑が登場したことがあげられます。江戸甲冑の伝統工芸士・大越保広作、吉徳監製のこの「鎧飾り」は 286,000 円（税込）です。

吉徳これくしょん『五月飾り展』開催

「吉徳これくしょん」は、人形研究家として知られた吉徳 10 世山田徳兵衛（1896-1983）の遺した研究資料を主体とする日本有数の人形玩具のコレクションです。端午の節句にちなみ、3月20日（金）～5月5日（火）の間、本社4Fの展示室にて吉徳これくしょん所蔵品による「五月飾り展」を開催します。本展では、江戸時代から現代に至る武者人形・甲冑並びに浮世絵や古文献など関連資料を公開するほか、とくに、昨年春寄贈された名工・二代永徳齋（1858～1928）の「神功皇后と武内宿禰」を今回初公開します。同品は歴史・芸術的にも高い評価を受けており注目の逸品です。また宮家旧蔵の「武者人形」も公開します。



二代永徳齋「神功皇后と武内宿禰」

以上